



吉田小学校では、「対話を機能させ 考えを深める学びづくり」という研究主題のもと、3年間、国語科の研究を進めてきました。

研究を進める中で、「言葉の習得」「漢字の習得」が、つまずきの大きい児童への学力フォローアップに重要であることが明らかになりました。

そこで、本校ではつまずきの大きい児童に対して、ことばの力を育む国語科授業づくり・個別の取組を重点的に行ってきました。



学校長

チーム「百合一心」で!

【主な取組】

- ① 実態把握・要因分析
【各種テスト・アンケート・行動観察・家庭との連携等】
- ② つまずきの大きい児童の指導計画作成
- ③ 日々の実践（授業研究・実践交流）
- ④ 手立ての振り返り・指導計画の改善

手立ての工夫

実態把握・要因分析

個の変容

【子どもたちの力を伸ばすために】

- 音読
 - 全員参加の国語科授業づくり
 - 漢字学習
- の充実に取り組みました。

【取組の方向を同じにするために】

担任・学力FU教員との連携・相談を随時・計画的に行うとともに、研究部通信を定期的に発行するなどして情報提供・研究推進に努めました。



研究推進教員

語彙が少ない、漢字・熟語が苦手

【つまずきの大きい子どもの実態と要因】

学習課題や学習活動を把握しにくい、情報を理解しにくい

学習意欲が低い

語彙を豊かにする取組

繰り返しのによる定着

個に応じた学習

数え方を表す言葉の学習

数詞・漢数字の読み・書きの定着のために、絵を見て「何がいくつあるか」を書き出す学習を行いました。



見つけた数詞や言葉を使った文を書くことができました。

漢字ドリルの音読

漢字の定着のために、漢字ドリルの音読に、繰り返し取り組みました。

- ① 漢字ドリルの音読を全体・個人で繰り返す。
- ② ペアで読み合いを繰り返す。
- ③ 家庭学習で漢字ドリル音読を繰り返す。



友達と読み合うことが意欲を高めました。一文が短いので音読しやすく、どの児童も達成感を味わえます。この取組によって、教材文をすらすら音読できるようになるとともに、漢字テストの正答率がぐんと上がりました!

漢字イラストカードの活用



漢字の習得につまずきのある児童に、次の学習を繰り返しました。

- ① 漢字とイラストを対応させて漢字を読む。
- ② イラストだけを見て意味を言う。
- ③ イラストなしで漢字を読む。
- ④ ①～③を繰り返した後、漢字を指書きする。

「漢字イラストカード」の読みを繰り返すことで、漢字を覚えて書くことができるようになりました。漢字・熟語の「意味」と「読み」を定着させることが、漢字の「形」をとらえることにつながります。漢字の習得にとっても有効です!

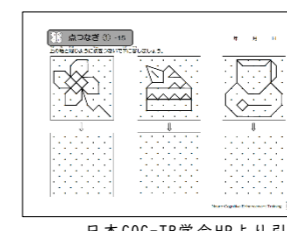
指書きによる漢字の練習・確認は、その場で何度でも書くことができるので、鉛筆で書く練習をする前におススメです!

放課後がんばり勉強



放課後学習(45分間)を週3回行い、基礎・基本の力の定着を図りました。

- ① 認知機能強化トレーニング
- ② 計算・文章の読み取り
- ③ 「漢字イラストカード」の読み
- ④ 家庭学習・自主学習
- ⑤ 振り返り



日本COG-TR学会HPより引用

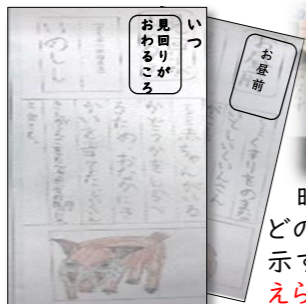
「点つなぎ」などの認知機能強化トレーニングは、時間を計ることで集中力が高まりました。学習の終わりに振り返りを記述することで、自分の学びを自覚することにつながりました。継続は力なり!

「分かった!」「できた!」と児童の顔がぱっと笑顔になる。その瞬間を重ねていくことが、やりきる力につながってきていると感じています。

学力FU教員

時間的な順序を表す言葉の学習

時間的な順序(いつ)を表す言葉(「～の前」「～の後」「～すぎ」)に気を付けて、教材文の内容を読む学習を行いました。



時間的な順序を表す言葉が、1日のどの時間帯を表しているかを数直線で示すことで、言葉の意味を視覚的に捉えられるような支援をしました。

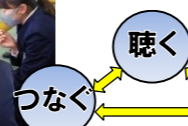
「午前」「午後」「正午」「お昼前」「お昼すぎ」「夕方」など日常的に使っている言葉の理解度がつまずきの要因になっていることもあります。言葉を丁寧に扱う授業づくりを指導者が意識することが大切です!

学び合い

子どもに学びをゆだねつつ、適宜子ども同士をつないだり、教材にもどしたりして、子どもたちが主体的に学ぶ授業づくりを行いました。



友達と困り感を共有しながら深い学びをめざします。



文章の読み取りへの手立て

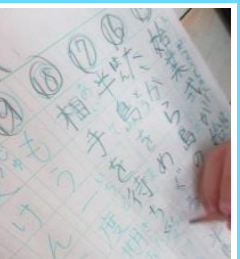
長文を紙1枚分に教材文を1枚の紙面に表し、内容を把握しやすくしました。

選択肢の提示
「このように」「おどろくように」「ゆっくおどろきながら」「胸を平手つ交して休ませていきおいよくおどろいて」

説明文の学習では、中心となる言葉を焦点化できるように、選択肢を準備しました。

個に応じた漢字練習

漢字練習ノートのマス目を個に応じたものにし、なぞり書きできるようにしました。漢字練習への抵抗感が少なく、家庭での学習習慣を育むのに効果がありました。



【先生の声】

- ★「分かる・できる」が増えることで、子どもたちの自信と意欲が向上していくのがうれしいです。
- ★個を丁寧に見ていくことが、授業改善につながりました。
- ★学校全体で協力する体制を続けていきたいです。

【子どもの声】

- ★漢字や計算が好きになりました。
- ★ペアやグループで学習して勉強が分かりやすくなりました。
- ★今日できたことを振り返って書くのが楽しいです。
- ★勉強がどんどん分かるようになっていきたいです。

【保護者の声】

- ★勉強しているとき「分からん!」と言っていたのが「えーっと、どうだったっけ?」に変わってきました。
- ★漢字や計算ができるようになって安心しています。

【成果】

- ・漢字が苦手な児童の漢字テストの正答率が向上した。
- ・学力テストにおける低学年の正答率40%未満の児童を減らすことができた。
- ・学習への意欲や自己肯定感が向上した。
- 【今後の取組】
- ・課題を焦点化・共有化し、組織的に取り組む。